

古事記 仁德天皇者 憎八田若郎女而晝夜戲遊
中畧於是太后大
悉投棄於海故号
其地謂御津前也

万葉

哀冬

法解

新古

後古今

玉葉

後拾遺

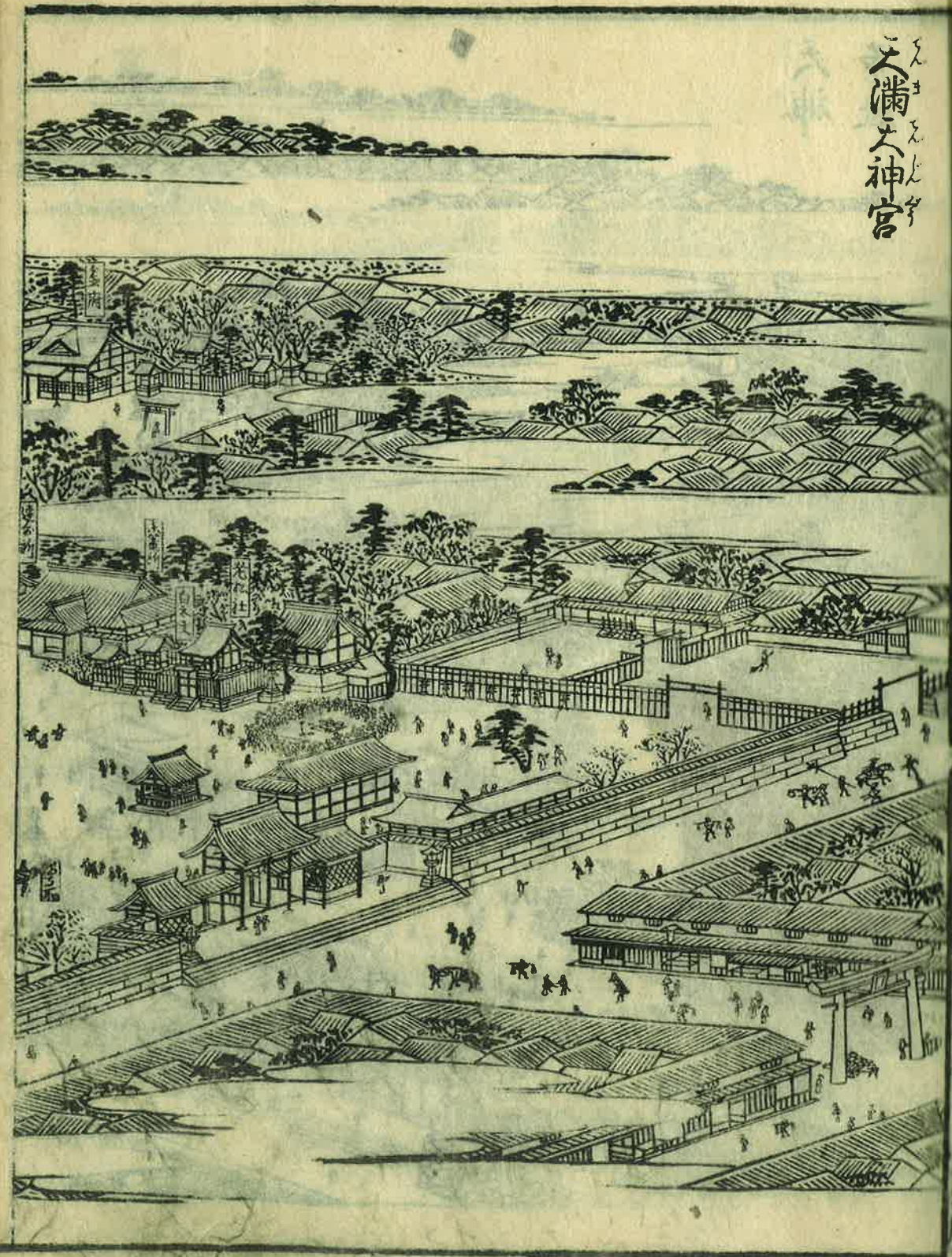
新拾遺

新千

玉葉

口

大満天神宮



身人部三

漢人部三

業部三

山二憶良

後鳥羽院

陸信

土御門院

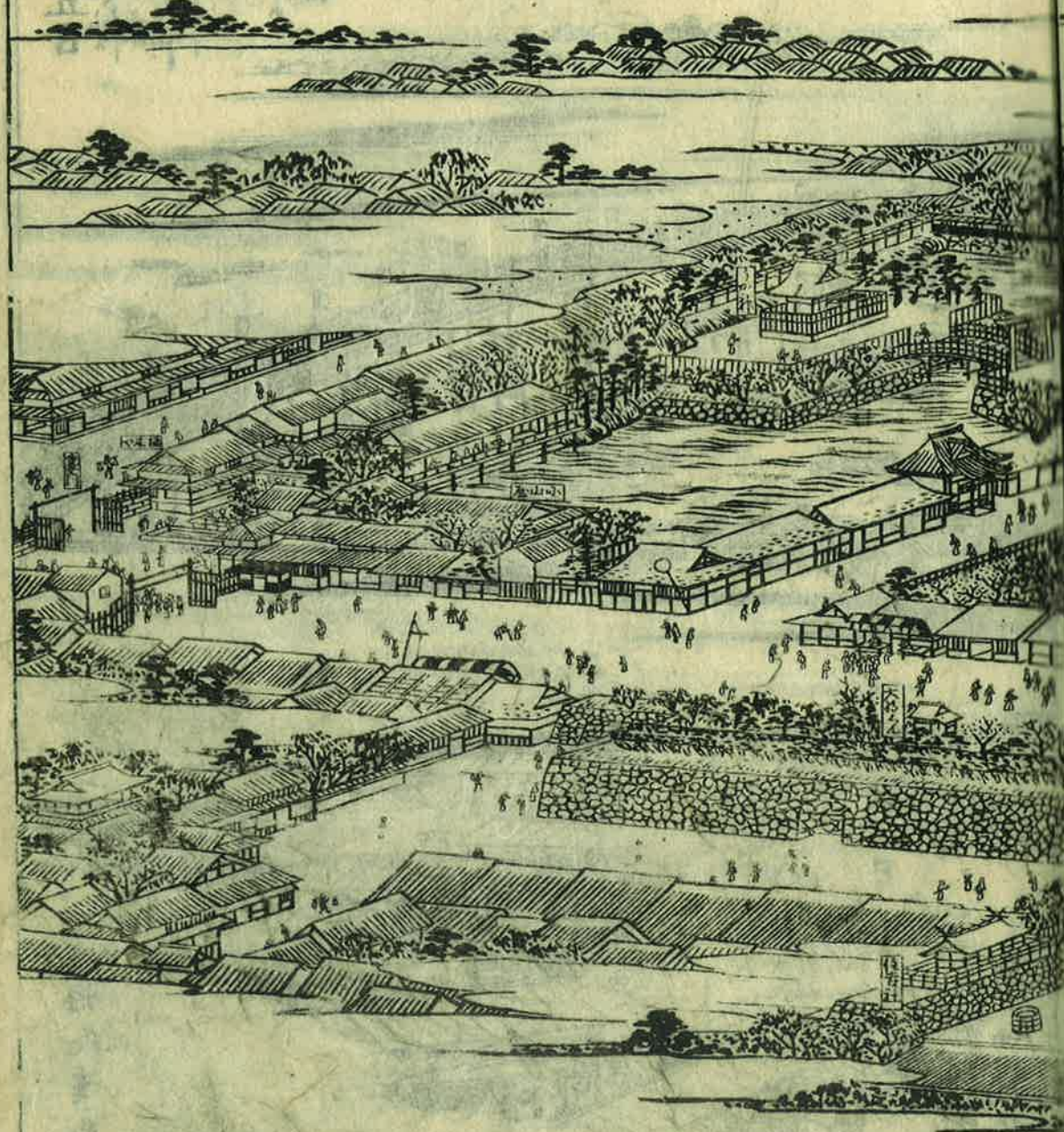
嘉隆

後鳥羽院

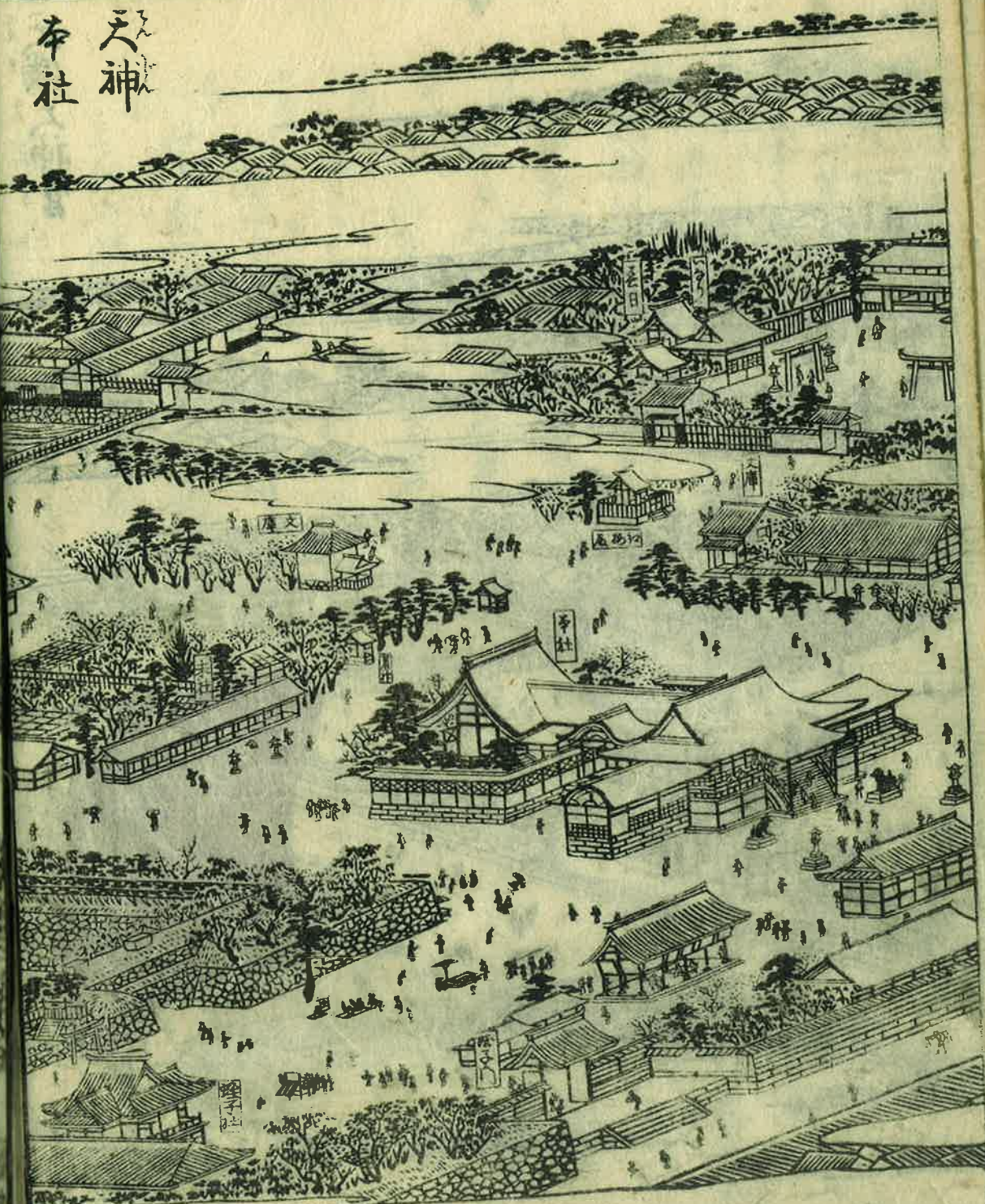
後鳥羽院

定家

裏門

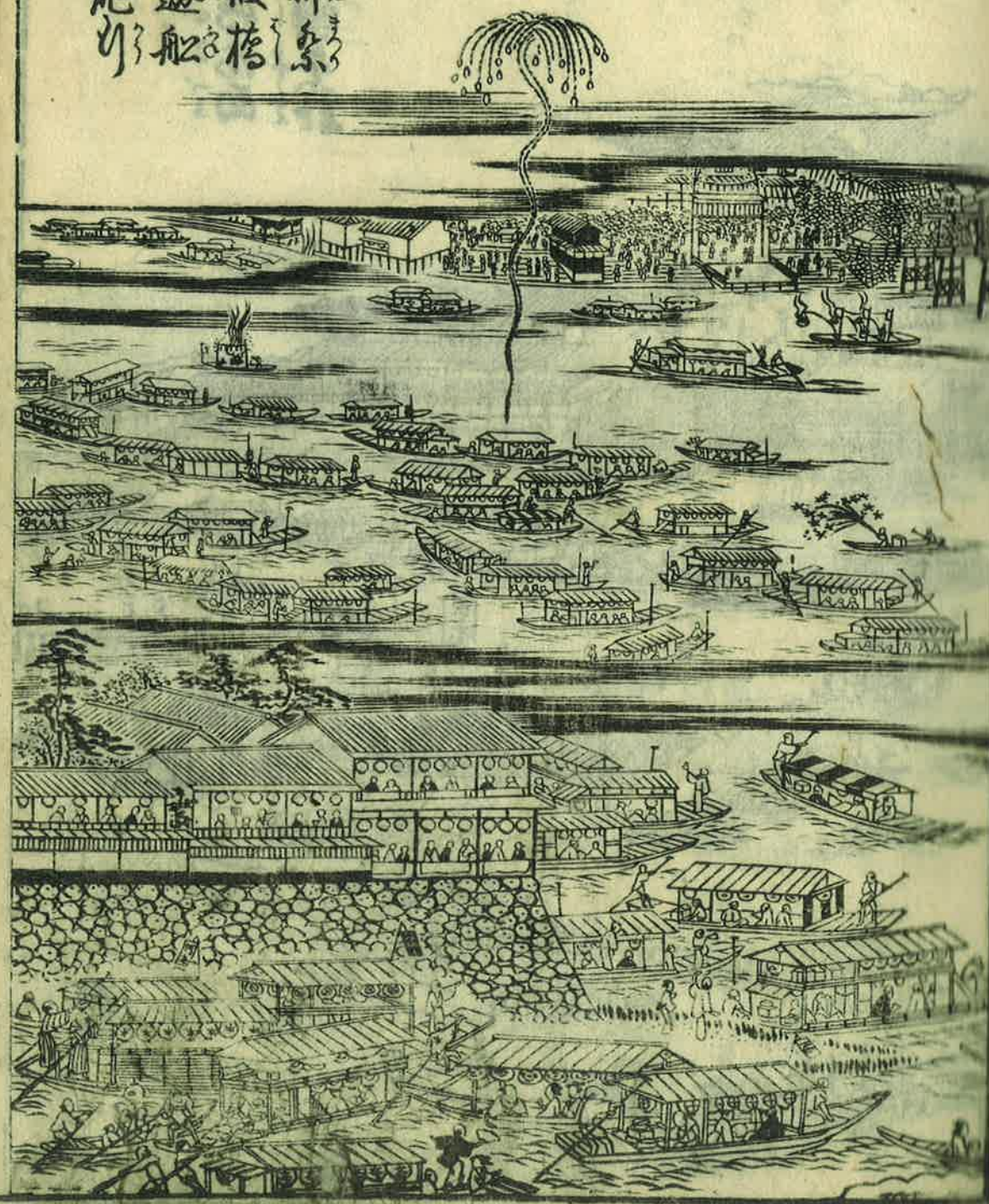


天神
本社



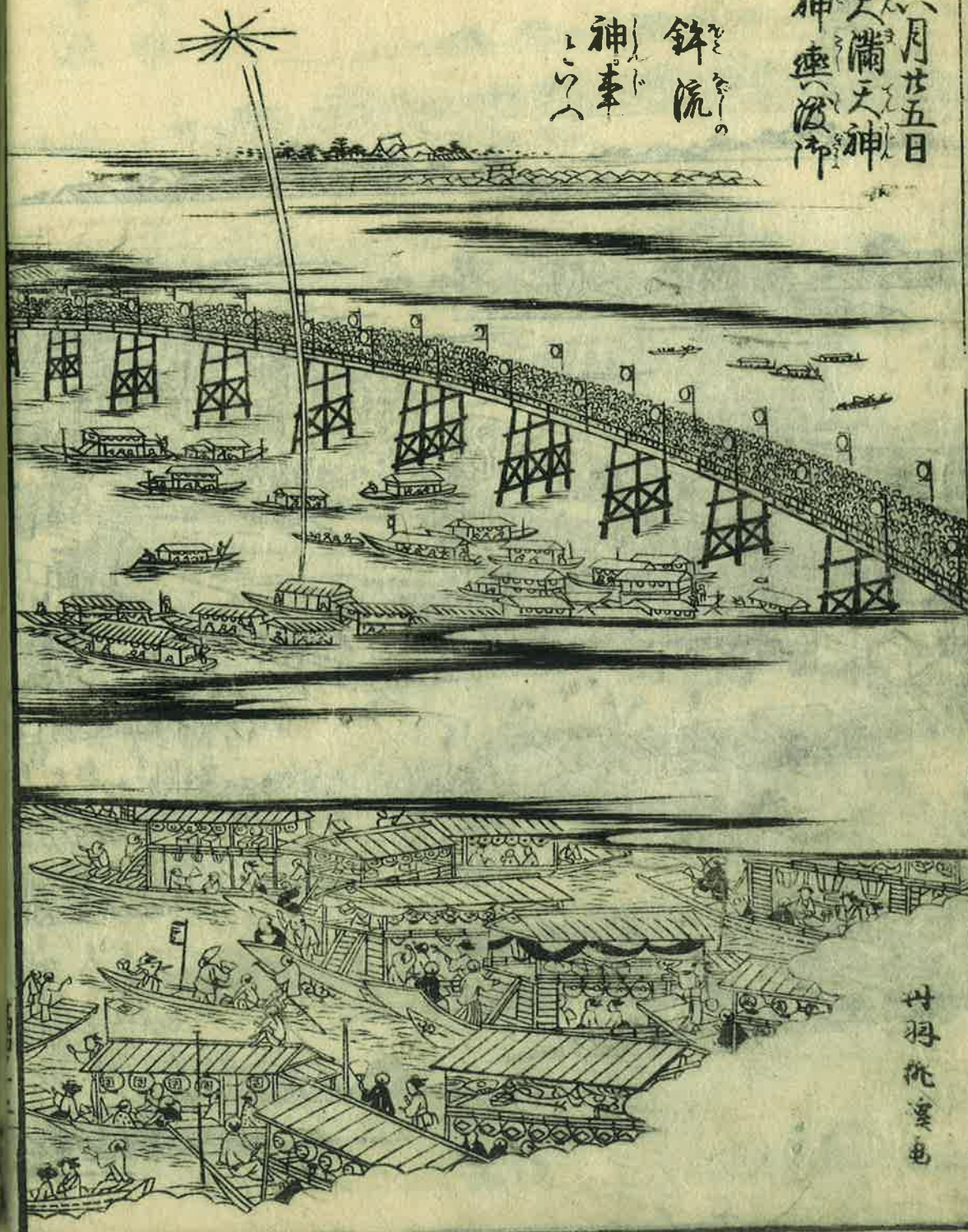
天
神
難
波
夜
遊
船
花
炮

其
一



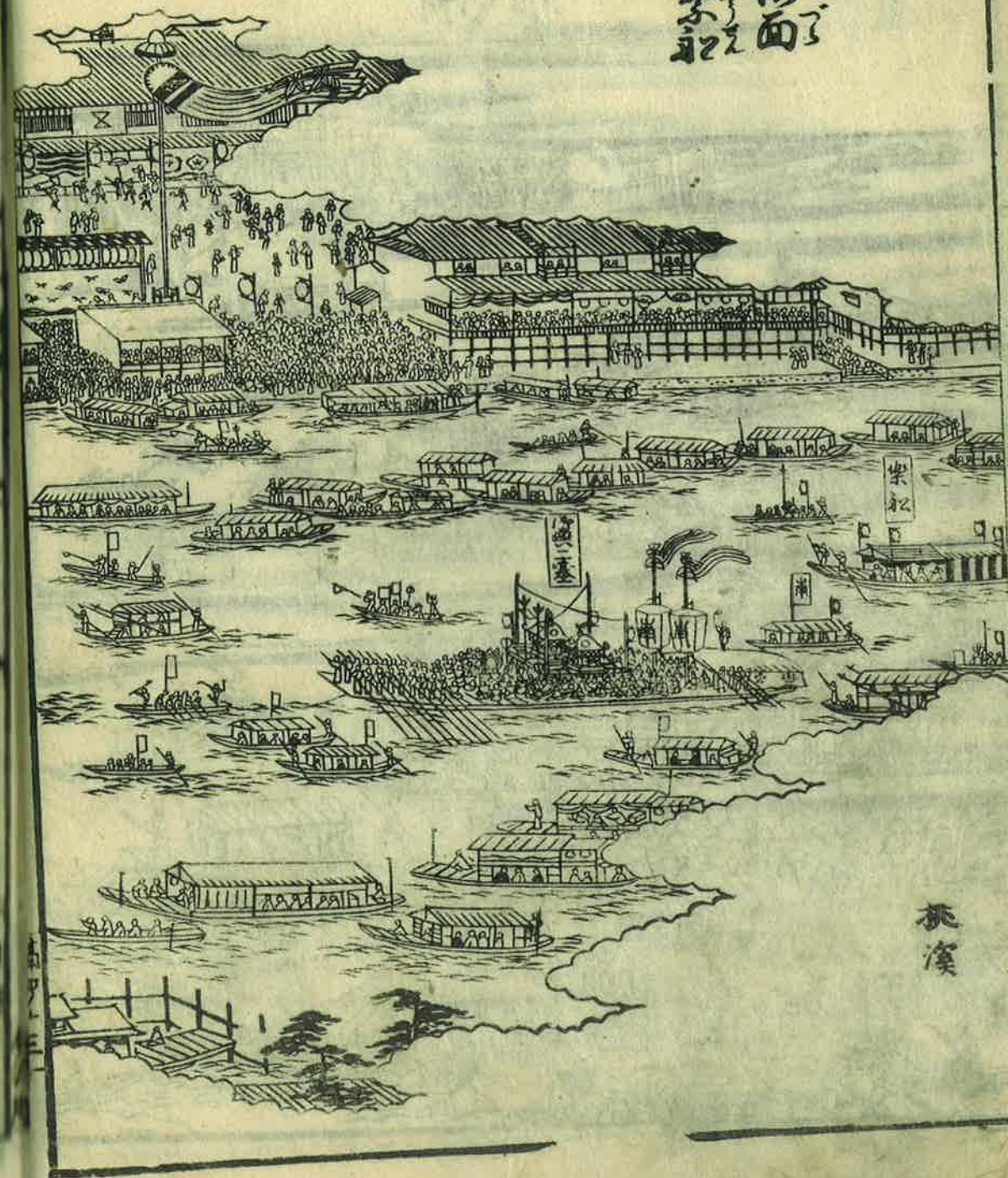
六月廿五日
天
神
神
連
渡
所

鉾
流
神
車
人



丹羽氏家也

堂修の面
神樂系記



振溪

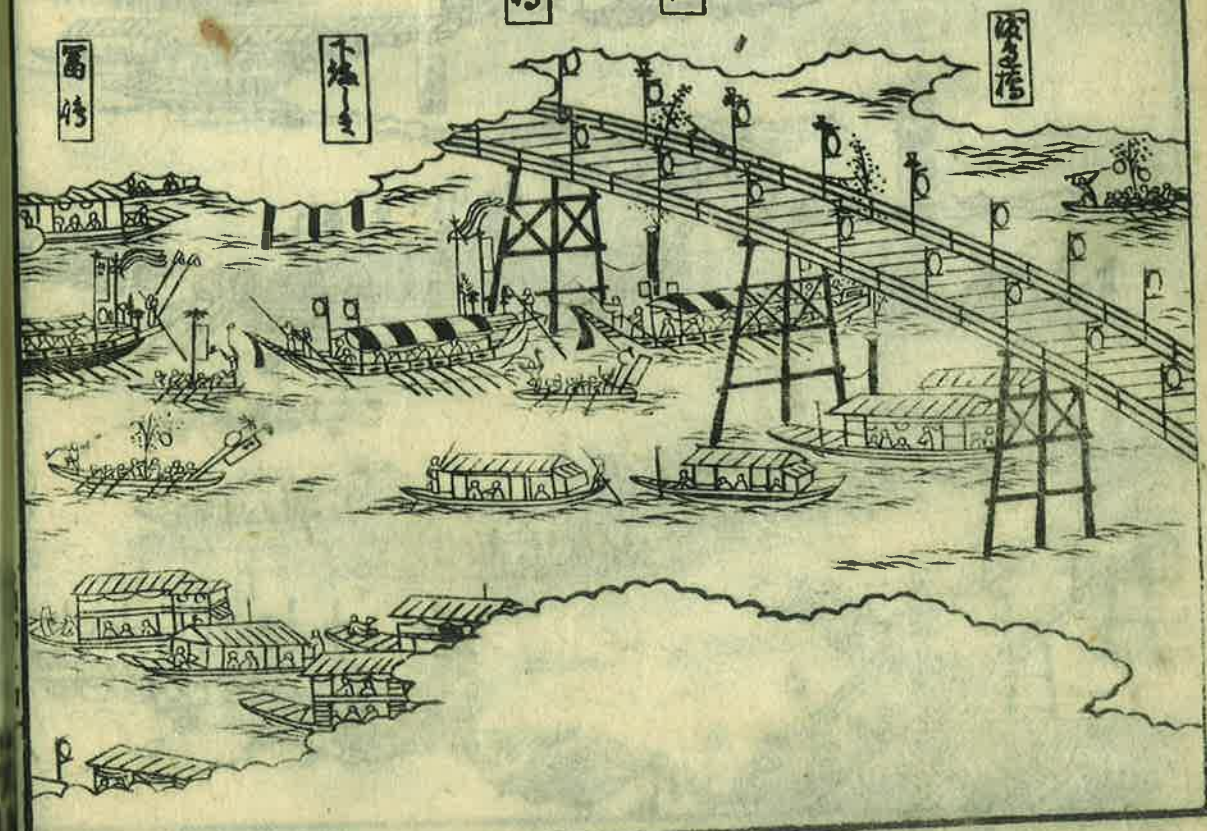
天橋系
月夜
挑か
系の
外
そ

東柳

具二



天神系々坂中の
 賜みく天満本社
 より神楽坂所
 のく難波橋より
 船ゆく美濃の
 社春はす
 所迷ねく福徳
 うう御のそねん
 曹つとある寺傳
 ううくくの本居ま
 飾る船中ふ太船と
 奥にさきかみんそくの中あそび
 更なる船く酒か初め琴こ弦
 興くそあふく事かあふく大川
 筋のお例の諸度第ふ家々々の終
 挑灯と照く流光え遷標と立
 舟のゆくと自在うく水の新地堤川の



まめくく凡流の衣と衣くくく
 賣く事く焼く優く多か得る妓婦
 あくあひつれく花難く後難く



神樂の還方へ及目の夜
 今このにんじ目へあふ
 沙盆ハツ時満々
 の入の時ひさくおれ
 とし毎年の林木の
 日むうり夜九ツ時
 まても汐ひる年
 かく川の
 流るる
 うへに船が
 安く神樂と
 還方へ
 あまふ
 夕々
 夕々



其四

戎馬
文滿宮
御旗所

